

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月11日(金)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 開聞総合体育館サブアリーナ
- 参加者数 : 【市民】36人、【市職員】市長ほか11人、【総計】48人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

地域と共に発展しようというのであれば、早く開聞岳一周道路を仕上げてもらいたい。

また、地熱の恵み活用プロジェクトも進めてもらいたい。旅館・ホテルの方が反対していると聞いているが、指宿へのリピーターを増やさなければ観光客は増えないと思う。一度来ても魅力がなければ、指宿には二度と来ないだろう。男女共に水着で入れるプールができると聞いたが、また行きたいよねと思われる施設を造れば、一つの旅館・ホテルではなく、今度はこちに泊ってみようという客も増えると思う。

最後に、2020年には国体の会場になると聞いたが、駐車場の整備もお願いしたい。

<市長>

一周道路の件については、先日、建設部長と産業振興部長と共に岩崎社長に会いに行き話をしたところ、やろうと言っていた。今日も、岩崎の方々と市役所で協議をした。2018年にはゴルフの日本プロ選手権が開催され、「西郷どん」という大河ドラマもある。岩崎さんとしても、新婚旅行で多くの方々が開聞を訪れた頃の賑わいを取り戻したいという強い思いがある。今日の話合いでは、伏見海岸からフラワーパーク、長崎鼻、戸ヶ峯、川尻、一周道路を通って、釜蓋神社まで遊歩道や自転車の専用道路ができないかという話もした。また、九州で一番景観のいい韓国のオルレコースになるだろうという話もした。2018年の大河ドラマが始まる頃に併せて、工事を進めてもらいたいとお願いもした。

地熱についてだが、地熱発電は一つの手段である。例えば、そこで農業の生産法人が地熱を利用して六次産業化を図り雇用を生む。さっき言ったように、日本の温泉文化は外国人旅行者にとって宗教の違いや温泉の入り方など合わない部分がある。指宿いわさきホテルに多いときに700人くらいが泊まっているが、その6割ぐらいはインバウンドである。ところが、大浴場に行くとほとんど入っていない。外国人は男性も女性もファッションでタトゥーをしているが、刺青をしている人は入浴禁止となっている。また、浴衣を着たまま入って来る人もいる。外国人も気軽に入れるような水着の風呂も必要ではないかと考えた。台湾の北投という温泉に行くと、水着を着た方でいっぱいである。風呂の横では食べ物を食べたり飲み物を飲んだり、社交の場となっている。先日、観光協会会長等と行ったが、平日にもかかわらず多くの方が来ていた。風呂の前にはドクターフィッシュもいたり、これが温泉なのかというような文化である。イスラムもそうである。

今後、観光地として指宿の良さを味わってもらうためには、水着で入れるプールも欲しいということでプロジェクトを立ち上げたが賛成・反対いろいろあり、特に温泉・ホテル関係の理解が十分

得られず、説明不足という指摘も受けたので、改めて説明もしながらいったん凍結をして考え直すことにした。そうすることで、議員にも納得してもらえるのではと思っている。どんどん増えている外国人観光客にどういう指宿をPRするのかということで、地方創生の事業の一環として計画に入れた。皆さんからの意見を聞きながら、この事業を考え直したい。

【市民】

地熱をしたら温泉が枯れるとか、お客さんが減るとか、そういう後向きなことではなくて前へ前へ進めてもらいたい。ホテルや旅館関係の方が反対しているようであるが、議員の方々もそういうのを説得する努力をして前に進めてほしい。

【市民】

地熱発電事業はどのような事業で、どういうことをしようとしていたのか。市民に対してわかりやすい説明をしながら事業を進めていけたらいいのではないかと。

<市長>

実際に事業ができるか、影響がないか掘ってみようとする調査井で、国が100%助成しようとするものであった。

<副市長>

地熱の恵み活用プロジェクトの全体像について説明したい。ヘルシーランドの中に蒸気井を掘削し、その蒸気を発電事業所に売る。その発電事業所は、九州電力に売電をする。その売電収入で得た額の一部を指宿市がいただき基金を積んで、コミュニティ事業、福祉、子育て支援事業等に活用しようという構想であった。

もう一つは、廃熱を利用して、水着を着用して入れる温泉施設や、干し芋やドライフルーツ、ドライ野菜といった六次産業への活用ができないかと考えていた。

昨年度は25か所で、地下2,000mぐらいの構造が把握できるMT探査を実施した。その解析と山川地熱発電所のデータ等も入れて地下構造モデルを作った。そうする中で、地下500~600mに不透水層があることが分かっている。山川地熱発電所は1,500~2,000mぐらいの温泉を汲み上げており、同発電所の近辺の泉熱を活用した温泉のデータとも比較している。実際、地下1,500mの塩素濃度と浅い所の塩素濃度を測ると交わっておらず、それぞれ分離した水系の中に温泉源があると考えている。

塩素イオン濃度の分布図によるとヘルシーランド一帯の濃度が一番高く、かなりの温泉源があることが推定できる。また、砂楽一帯も温泉源としてかなり有効地域があると推測され、それぞれは分かれた地域であるということが推定できた。深度数百mの泉温分布図でも、塩素濃度と同じような分布を見て取ることができ、温泉街と山川の泉源は違うということが推定できた。

そこで、ヘルシーランドから1,500mぐらい調査井を掘って確認しようとしたのが今年度の事業であった。そのデータを確認した上で事業性があれば次に進もうというのが今年度の取組であった。

<市長>

人口が減ると、当然税収が減る。税収が減ると、地域振興や子育て、介護、福祉などに回せなくなる。せっかく熱資源があり市民の財産であるので、市が管理をして使った分だけお金を払ってもらい、それを地域の振興に役立てようという事業であった。しかし、十分な理解を得られず賛否両論あるところで強引にしても問題があるだろうと、とりあえずは凍結した。

【市民】

この事業をすることで、どのように潤ってくるのか。

<副市長>

国は2020年に、4,000万人の外国人訪日目標を掲げており、今年度は2,500万人に到達するのではないかとされている。この外国人観光客は、富士山・温泉・桜という三つの大きなイメージを日本に持っている。しかし、温泉に入る方は半分にも満たない状況である。それは、文化の違い、宗教上の違い、タトゥーが入っているとといった理由である。一度温泉に入った方でも、また観光に来た場合は半分ぐらいしか入らないというデータもある。そのような視点から、新しいタイプの外国人が入れるような温泉がほしいという意見が旅行関係者からも寄せられている。

もう一つは、農業の産地でいろいろな気候条件で影響を受けるが、なるべく影響を受けないようにするためには六次産業化が必要だろうということで、ドライフルーツ・ドライ野菜といったものを一つの付加価値として作るために地熱を使うことで、コスト削減やクリーンなイメージにもつながり、地域の雇用促進や所得向上にも寄与する。また、指宿に魅力を感じて人が集まって来ることを期待している。目標値を掲げて、総合戦略を行っている。

<市長>

働く人、若い人たちが意欲を持って仕事に励んで、子どもや結婚をという魅力を創出する、それがひと・まち・しごとという地方創生戦略の大きな目玉である。その一つとしてやりたい。

【市民】

蝶や雀、ハチなどを見なくなった。開聞岳を見れば、松枯れをしている。これは、松くい虫だけのせいなのか。行政として、この原因を突き止めてもらいたい。松だけでなく、人間にまで被害があると大変だと思う。

それと、指宿はホテルのためにあるのではなく、4万1,000人の市民のためにある。開聞地域は隅から隅まで舗装されている。これは、そうめん流しのおかげです。行政も金を稼がないといけないと思う。ぜひ、地熱を前向きに進めて、市長として勇気ある決断をしてもらいたい。

<市長>

大切なことを指摘された。農薬の問題もあるのかもしれない。環境問題は、大きな課題でもある。松枯れもその一つかもしれない。前は、戸ヶ峯や開聞岳山麓には空中散布をしていた。しかし、たばこに残留農薬が検出されてできなくなった。今は樹幹注入を行っているが、それでも効かない。その原因についても、農政と考えているところである。抵抗松を植えようとかいろいろしている。

<農政部長>

松枯れの原因のほとんどは松くい虫であるが、中にはシロアリでやられることもある。気候変動によって松が環境に適応できなくなって枯れるということは証明されていない。

【市民】

私が聞きたいのは、吹上や南九州市では枯れていない。あの辺りに、松くい虫はいないのか。なぜ、開聞岳の松が枯れるのか原因を調べてもらいたい。

また、サッカー場の構想があるが、ぜひ開聞にしてもらいたい。そうすることで、ふれあい公園のログハウスや国民宿舎にも客が来るだろう。そうめん流しで昼食を取ったりと、開聞の活性化につながると思う。開聞をスポーツのまちにしてもらえるとありがたい。

農業についても、市有地を利用して、東京など都会にいる農業をしたいという若者に来てもらうことも大事である。

<市長>

国体でソフトボールがあるが、開聞地域の特性を生かした地域振興を。国民宿舎跡地の件も、今公募をしており、今年度中には方向性が見えてくると思う。一周道路や長崎鼻と含めて解決をしたい。

【市民】

先日、市民体育祭に参加した。第1回からずっと参加して楽しんでいる。それぞれの地域が、それぞれの特徴を出して素晴らしい運動会であった。しかし、応援や見学に来る方が少なく寂しい思いがした。いろんな会で市民の参加が少なく残念である。

市民体育祭については、広報紙に細かく掲載し、あらゆる角度で市民に呼び掛けている。しかし、そのような結果であった。数年前に開聞で開催してもらったが、残念ながら雨であった。また、開聞で開催してもらえると思っていたが、その後そのような話もない。やはり、4年に1回でいいので開聞で開催してもらいたい。開聞で開催すると、参加してくれる人もいると思う。道具の運搬や記録の比較など問題もあるかもしれないが、市民体育祭は記録ではないと思う。

もう一つは、指宿庁舎に行くと職員が笑顔で対応してくれて嬉しい。しかし、駐車場が少なくて困ることが多い。北側に芝の空き地があるが、使っているところを見たことがないので、駐車場にすればいいと思う。

<市長>

市民体育祭については、そのような話があったということを運営委員会にも出してみる。最初は持ち回りをしようということで開聞でやった。

市役所の芝生を切って3分の1ぐらいを駐車場にしたところ、逆に苦情がすごかった。駐車場が足りず、あそこが駐車場になったら便利だという気もする。運動会の頃には、近くの柳和幼稚園の子どもたちも使う。駐車場も、庁舎と併せて検討させてもらいたい。今度、開聞庁舎についての話し合いも始まる予定である。

<開聞支所長>

開聞庁舎は、昭和45年に建てられて46年以上経っている。昨年調査をしたところ、補強をすればまだ使えるということであった。今年から建物の在り方検討委員会を立ち上げて進めようとしているので、皆さんの意見をどんどん出してもらいたい。

<市長>

駐車場の件は話し合いたい。おっしゃるとおりで申し訳なく思う。

開聞庁舎の件は、今のような庁舎ではなく、例えば1階にコンビニを入れると賃借料が入り、皆も買いに行く。横には放課後児童センターのようなものを造ったらどうか。2階の空いた所には児童図書館をしたらどうか。多方面で使え、みんなが集うような庁舎をどう造ったらいいのか地域の声を聴くようにということで立上げをしている。山川では17項目ぐらい出てきた。

石巻市役所の1階は全部テナントで、コーヒーを飲む所、パン屋、薬局、子ども関係等あり、皆が夕方に来る。2階以上が庁舎になっている。複合的な庁舎、皆が行って楽しい庁舎にするにはどうしたらいいのか意見を早くまとめてほしい。まとまったら、すぐにやろうと言っている。色々な意見を寄せてもらいたい。

【市民】

食生活推進委員をしているが、開聞保健センターにせっきく調理室を完備しているが、ほかの用途に使うためなかなか借りることができない。土日もセキュリティーの関係で使えない。開聞で何かするとなったらどこがあるかという話になっている。開聞庁舎の夢のある話を聞いたので、私たちも意見を言わせてもらいたい。

<市長>

現在、さつき園が入っているが、基本的には保健センターとして使うべきである。両親が働いて家に帰っても誰もいない子どもたちや、さつき園の子どもたちが、開聞庁舎の中や横で過ごせると、親も駐車場が広くて便利であり、庁舎の外で遊んだり、勉強したり、本を読んだりしている子どもと仕事が終わったら一緒に帰れるとか、そういう集いの庁舎が必要だと思っている。そうすることで、安心して仕事や子育てができるような庁舎を造りたい。ぜひ、検討会には意見を出してもらいたい。

【市民】

台風の被害により、大隅湖での国体開催が難しいかもとの新聞報道があった。池田湖の活用ができないものか。

<市長>

大隅湖は確かに、ボート等の会場になっている。今後、県や鹿屋市がどのような判断をするのか聞いてみたい。それと、大河ドラマ「西郷どん」まであと1年2か月しかない。観光地として、池田湖もこのままでいいのか。唐船峡までの道路も、大型バスが来たら通れない。また、木が生い茂り、大型の観光バスは非常に苦勞している。あそこを含めて、建設部長に取付道路を何とかするよう指示をしてある。

<建設部長>

唐船峡の入口については、今年、測量設計も終わり用地買収をしているところである。道路拡幅の計画もしており、近々工事に入ると思うので御協力をお願いしたい。

<市長>

あと一つは、唐船峡の駐車場である。農機具や水やソフトクリームを売ったりする所があるが、

そこにも話をしに行ってきた。1時間も待つようなときには、子どもたちが遊べる公園の整備等もしたらどうかといったいろいろな案を出しているところである。開聞地域にとっては、国民宿舎、一周道路、唐船峡、そして庁舎といった幾つかの課題がある。今後、皆さんからの意見を聴く場を設け努力していきたい。

【市民】

農業委員会と共に農地の中間管理事業に取り組んでいる。上野の広域農道沿いは、土壌の形態も悪く土手も高いと耕作放棄地が増えてきており、現在7町歩ぐらいある。周りの方も困っているためこの事業に取り組んだのだが、若者に指宿の農業はいいといった情報発信を市としてもどういった形でやってもらえるのか。農業をする若い方を誘致できれば、地元も活性化すると思う。

<市長>

やはり若者は農地を含めて環境が整っていないと、なかなか頑張ろうという気にならない。耕作放棄地は本当に多くなり、営農振興の上でも大きな課題であると思う。

<農政部長>

人と農地をどうするかというのは、農業と地域にとって喫緊の課題である。できるだけ多くの方々から農地を集めて集約をして法人や大規模農家への預替えを行い、耕作放棄地を減らしていくという事業を市としても進めている。

<市長>

これは大きな課題である。農業委員会やいろいろな方々の意見を聴きながら取り組んでいきたい。

【市民】

今日は、市長をはじめ12名の方が開聞まで来てくれたことに感謝する。しかしながら、開聞地域での語る会が開聞と川尻の2か所でいいものだろうか。この12名が1人ずつでいいので、開聞の西部地区・上野地区・仙田地区というような形で説明会をしてもらえれば非常にありがたい。そして行政がすることが理解できるのではないかと思う。やはり、集まりが少ない。各集落の市民に聞いてもらうのが行政だと思う。

<市長>

もっと身近な所で集まれるような手立てを考えたいと思う。